



強い大都市圏域をめざして (私案)

強い大都市圏域をめざして

強い危機感

2027年のリニア開業に伴う
「ストロー現象」

日本が東京・大阪で成り立つ
という「2眼レフ論」

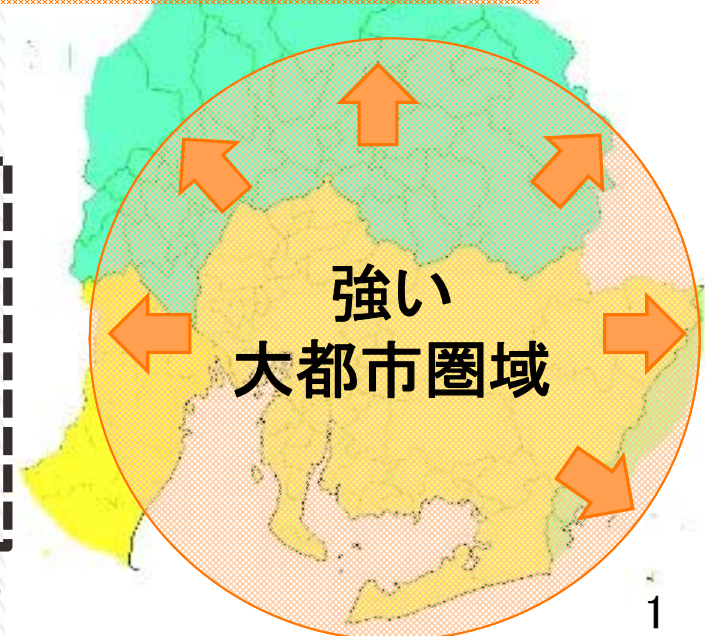
めざす姿

道州制を見据えた **強い大都市圏域（準独立）**

そのためには…

- ① 圏域全体を活性化させる
“**成長戦略**”
- ② 成長戦略を支える“**行政体制**”

が必要！！



① 圏域全体を活性化させる成長戦略

【主な取り組み】

■ 産業活力

- ・企業の投資を呼び込む環境整備、次世代産業の育成など

■ 魅力創造

- ・名古屋ブランドの確立、広域的観光ネットワークの形成など

■ 都市基盤・防災

- ・災害に強い社会システム、リニア開業を見据えた都市機能強化など

■ 若者・女性支援

- ・子どもを生み育てやすい環境づくり、若者の活躍の場づくりなど

② 成長戦略を支える行政体制

【名古屋市の考え方】

- 圏域全体を牽引する強い名古屋市の実現
- 基礎自治体間の水平連携による
圏域のコア(市町村連合)の確立
～“尾張名古屋共和国”～ ※三河地域も同様



コア(尾張・三河)をつなぐ新たな連合組織が必要



道州制を見据えて、連合組織の輪を他県へ拡大

圏域全体を牽引する強い名古屋市の実現

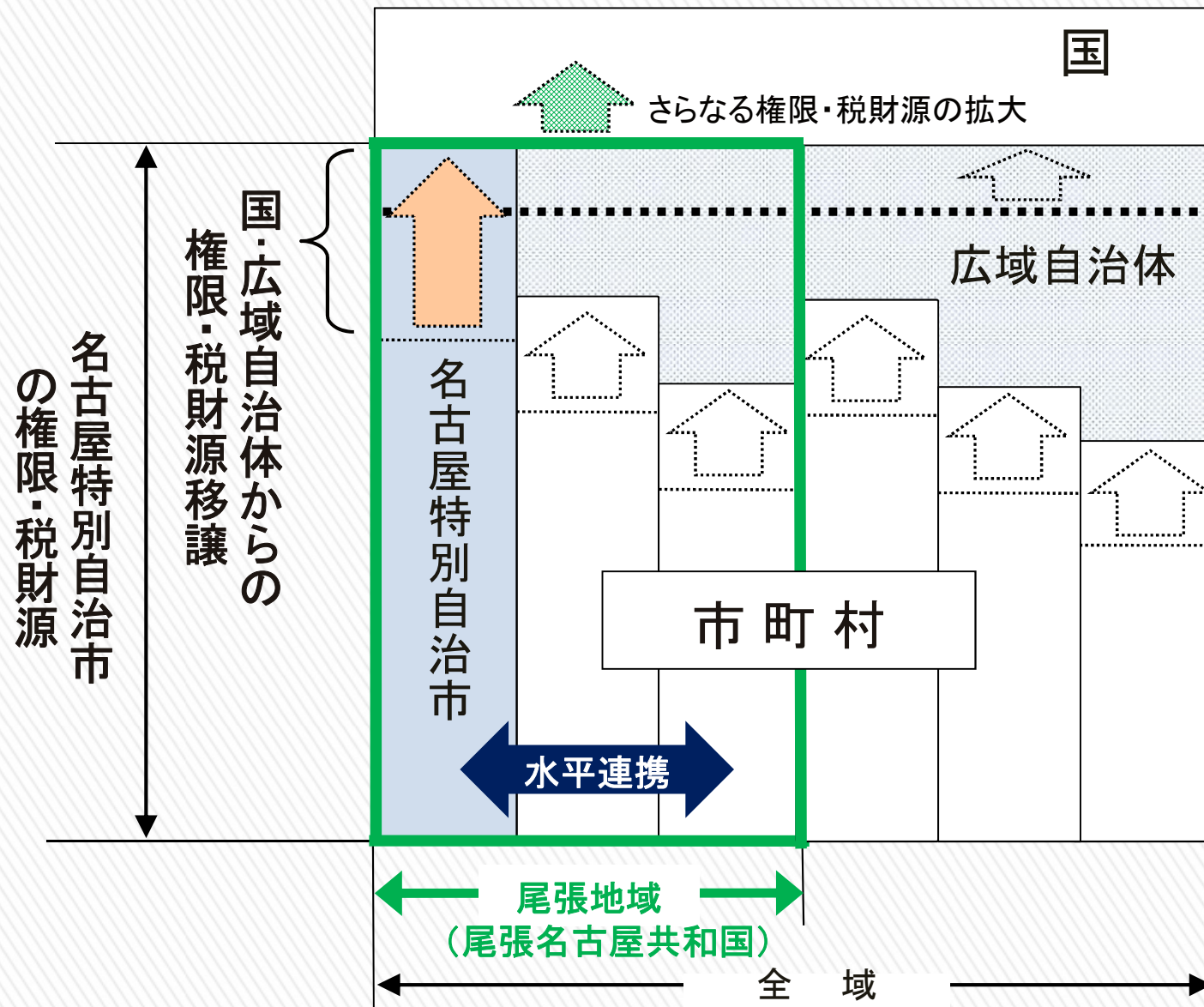
【基本的な考え方】

- 地方が行うべき事務を一元的に担う、地域の特性を踏まえた**名古屋版“特別自治市”**へ移行
- 国・広域自治体から大幅な権限・税財源の移譲を受け、行財政面で**準独立**

【ねらい】

- 大都市としての担税力を背景とする、強い権限・税財源により、市域内だけでなく、**圏域全体の活性化を牽引**
- 住民サービスの実施主体の一元化により、**住民の利便性の向上、行政全体のコスト削減**などを実現

強い大都市圏の概念図(イメージ)



圏域の“コア”の確立 ～尾張名古屋共和国の実現～

【基本的な考え方】

- 尾張地域において、市町村が自主・自立しながら、名古屋市を核とした強固な水平連携により、**圏域全体の発展をめざす“市町村連合”**を新設
- 名古屋市は連携の核として、**リーダーシップ**を発揮

【ねらい】

- 圏域全体の**魅力向上と活性化**
- 行政区域を越える**広域課題・共通課題の解決**
- スケールメリットを生かした**事業効率化、サービス水準確保**
- 権限移譲の広域的な**受け皿づくり**

多様な連携形態 ～尾張名古屋共和国の実現～

連携形態は、具体的な連携を進めながら、皆で議論！

従来の連携形態

連携の度合い

A

ゆるやかな
フレンドシップ

- ・観光キャンペーン
- ・B級グルメ大会
など

B

通常の
連携

- ・ごみの受入れ
- ・消防相互応援
協定
など

C

地方自治法
に基づく連携

- ・施設の区域外
設置
- ・広域連合
- ・一部事務組合
など

D

合併

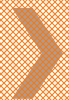
- ・一体化

+

新たな 連携形態

E

新たな
広域連携の
形態
(法改正が必要)



コアをつなぐ連合組織の創設

【基本的な考え方】

- 尾張・三河地域の市町村連合をつなぎ、圏域全体の発展をめざす **新たな連合組織を新設**

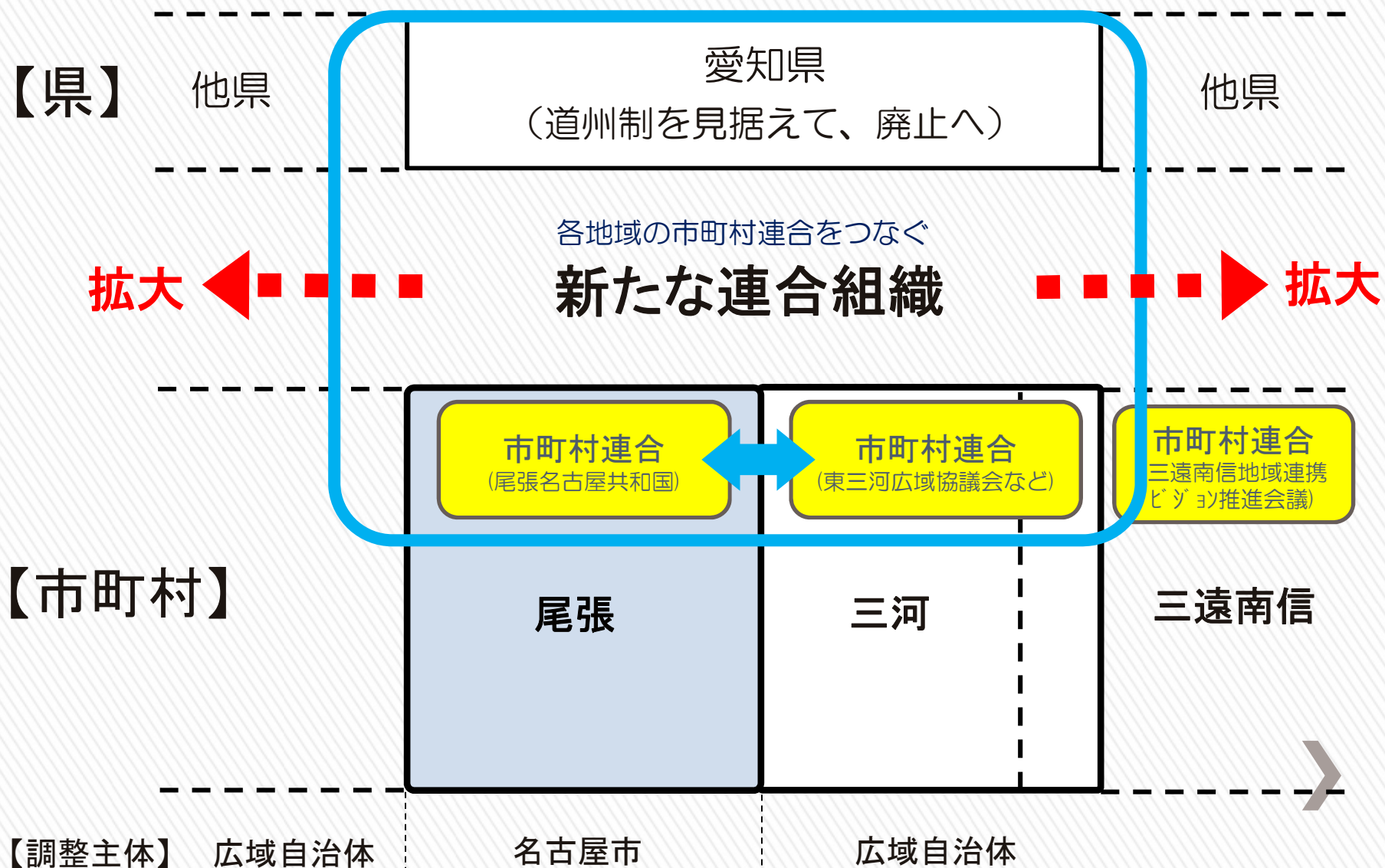
【構成】

- **連合組織の長(司令塔)**、尾張・三河の市町村連合の長 など

【方向性】

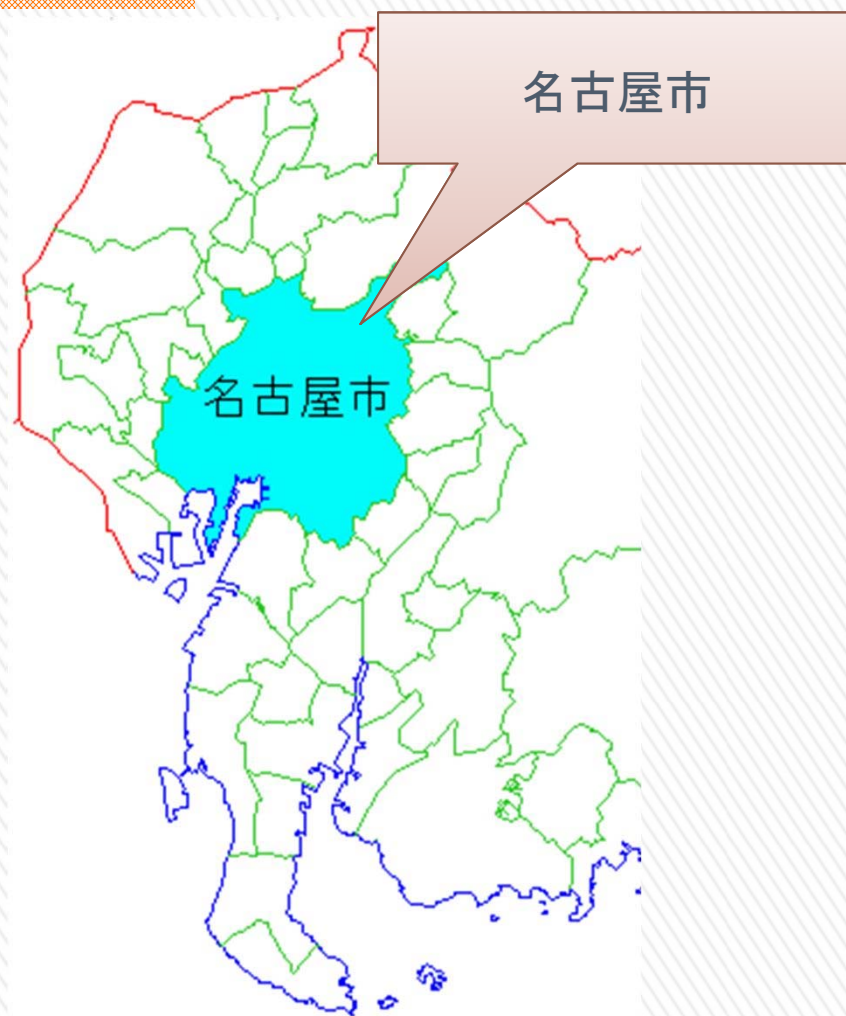
- 道州制を見据えて、尾張・三河地域以外の市町村連合も順次加え、**連合組織の輪を他県へ拡大**

概念図(イメージ)

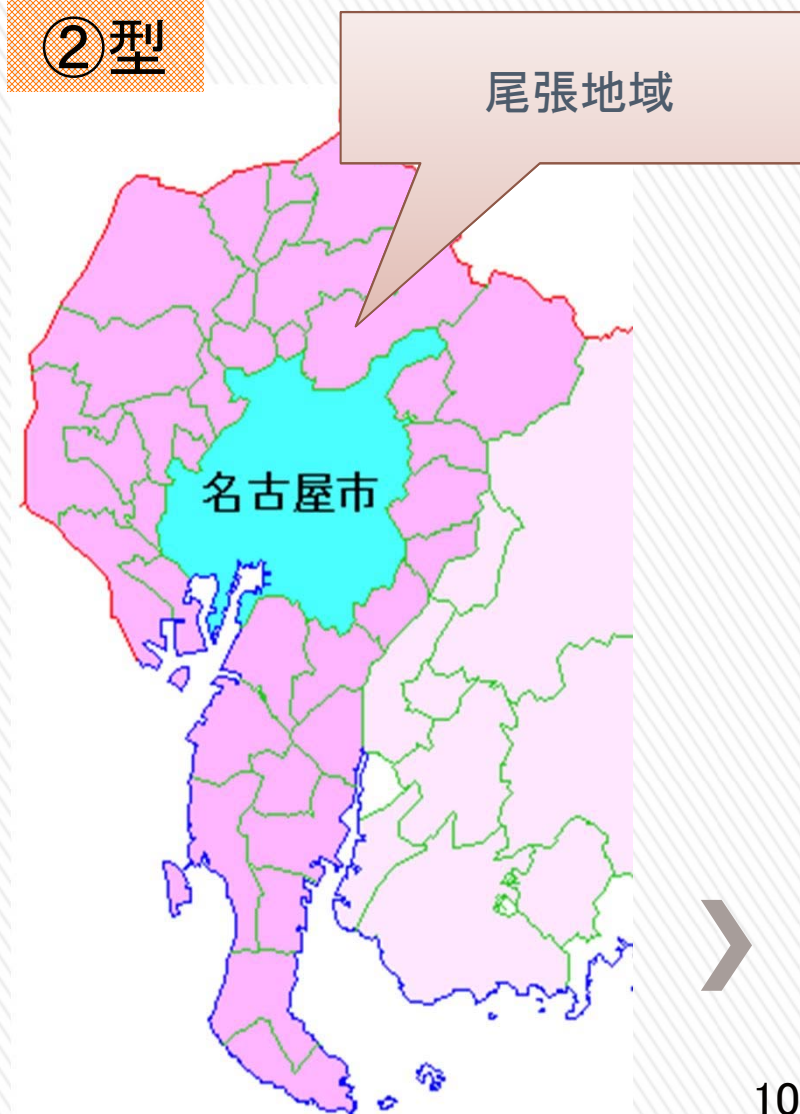


【参考】 “新たな都市の姿”の範囲(類型)

①型



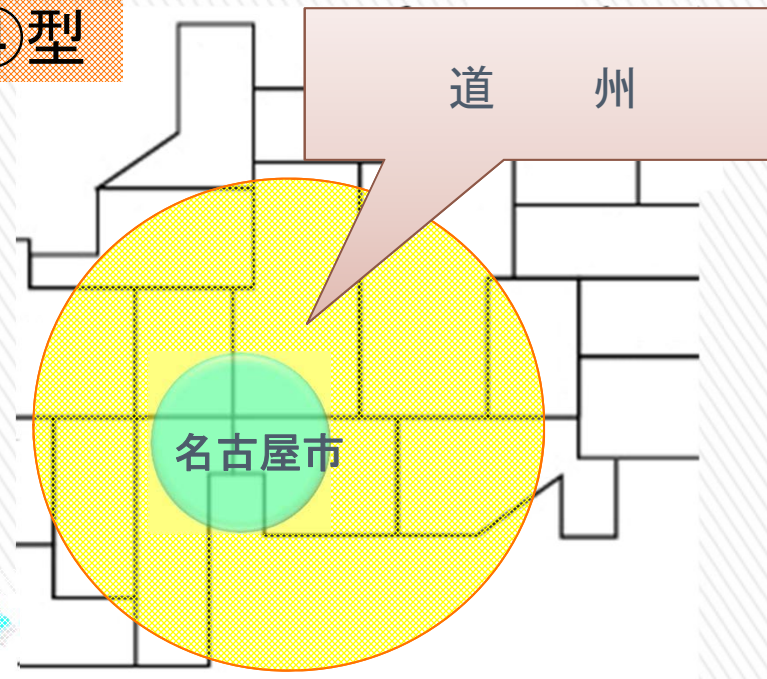
②型



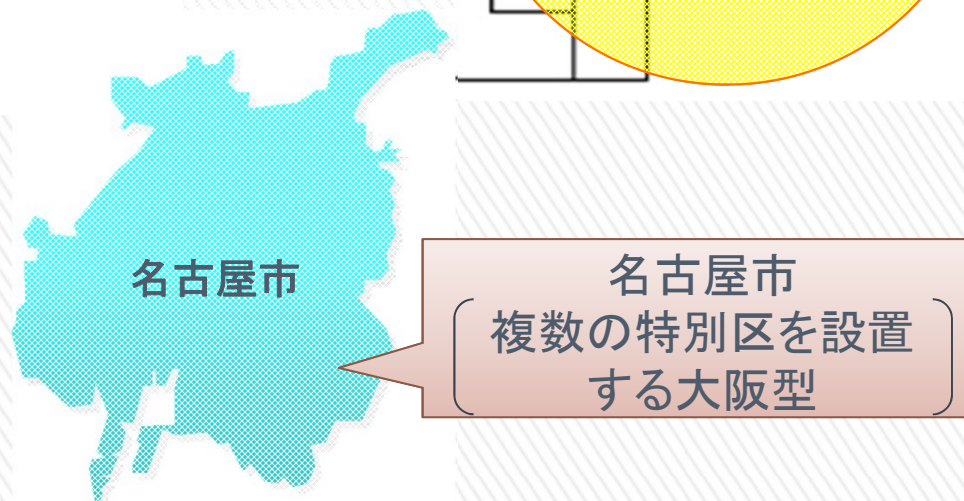
③型



④型



⑤型



- 「中京都」は、“新たな都市の姿”の呼称の1つ(仮称)である。
※現行法上、東京都以外は、「都」という呼称が認められていない。
- “新たな都市の姿”の呼称についても、今後、議論が必要。